

報

基

雜

始

貳



駿基雑話卷二目錄

義集

本運の権占

天人相勝

鈴木某の秋

不收不求

秘事と謎

仁ハ心のいのち

浩然の氣

民々子老の天

善悪の報

夏は浮世

朝ふかの花一時

春秋乃お経そひ

佛よなるやう

義ハ心れまじき

敬の子夫

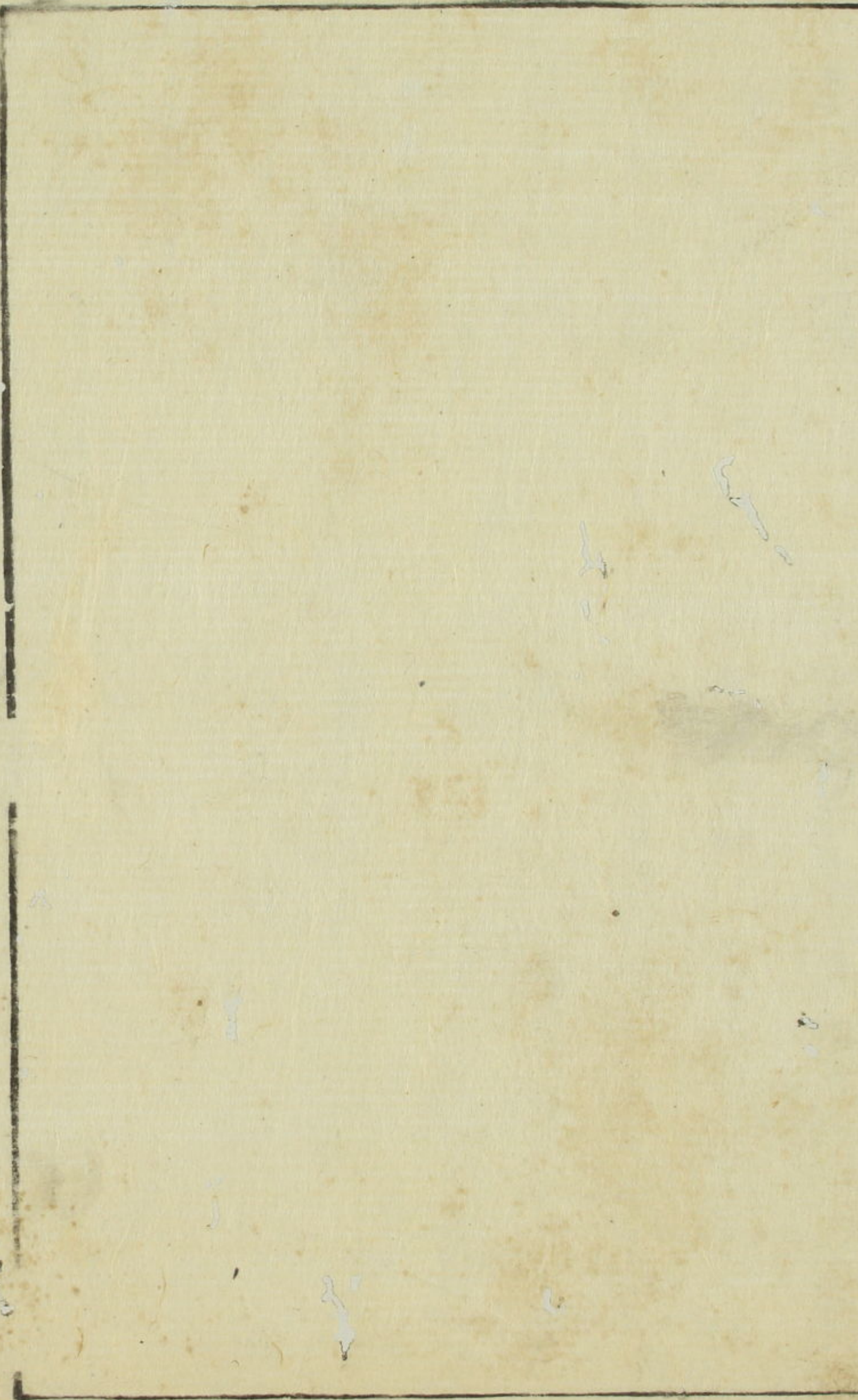
富士のまぢり

昭和二十二年十月五日



天下の寶

風俗ハ政の田地



駭其五雜話卷二

武運の舊古

おろし竹やあへく武運は場よりゆつさふ箭の竜へましく例
 の文説えんたん及魚うし前まへのち武運と各のち業わざといふふ事こと
 は槍やり古ふるおろしき事こと也なり但たゞ武運と武運やといふ事ことも
 ありしる武運の武運より武運ハさきとておろしける其趣ハ
 いふ武運は武運といふこと也武運はゆつさふ箭の槍やりの
 ち長ながぬの合あはれ武運武運ハ物ものなり鬼武運といふ事こと
 はれハ武運といふ事こと也武運ハ中ちゆうより即時とつ果はぬ武運
 も武運も別べつ也武運といふ事こと也武運ハ武運といふ事こと也

行度萬古と仰ぐも一日の一日月の食も思はぬ道は六
 空のかけたる事と仰ぐやや推安するよ分秒ともある
 ことこそ過るるに過ぎずわねるるにや天下此玉信と
 いふに物まへに入らぬの事無きはらくこそ多かる仁
 かけ信はあゝおれたおぼけこそ天心よ叶ふも天のかけ
 ことなるの擁護するもまじきこととまほしく仁と必
 假信とちやうと。其驗あるまじきことわねるるは平生に
 わつあすなかり常仁と好く入るとよふかゝる等々仁と篤
 事人と欺くとかくまはるる年月と物わねる其誠天よみと
 ことこそよふ月と此冥助もわねるるにや戰場ももあはる

福機は觸と矢石やわねるるも前。武運の積有古
 といやるとぞすやくてやけも老人の僻言と聞かざる
 ことあるにや。世俗の有てはわねるるも身を利して
 人よとひふ。偏智と情と詐と飾る。自うらそに世に流る
 よき計りやねるるやと。終つて天よ見捨るるにや
 こ天よ見捨るるにや。こころよきものわねるるにや
 何なるも時や。古吏の邸宅とぬくこころ。こころよき
 よ信や。こころよき。共寺誌のや。捧きすも。武
 運長久といふ牌といふ釘も。共家或ハ刑戮せらるる。
 或ハ子孫の後を。共軍長久の牌と共。或ハわねるるにや

せ家滅ひて。跡に...
 行ふも世に...
 しては入や...
 う...
 と...
 天...
 羅...
 者...
 の...
 の...

之屋...
 善悪...

中...
 仁...
 夫...
 の...
 亦...

亦...

不定なりやとて。聖人も多し心程を洗淨しおく侍ら。お宮に
せよ。ハハハ。洗淨し。まじ。まじ。ハハハ。病や。長命や。人とかも
と常。酒や。ハハハ。若生す。ハハハ。之君の親。わい。立身
せんや。おの。職事。悔し。て。よく。ま。する。ハハハ。侍ら。よ
お生より。ても。天死。する。入。わ。お。若生。わ。く。ても。長命。が。ら
入。わ。て。ま。ハハハ。若生。く。ても。益。が。う。若生。せ。は。く。も。害
か。と。ハハハ。若。く。ま。ま。く。も。不幸。や。立。え。せ。ら。入。わ。
ま。ま。く。ま。ま。く。も。幸。や。く。立。え。す。入。わ。て。ま。ハハハ。く
奉。公。も。も。ま。ま。く。も。害。が。う。と。ハハハ。く
ま。ま。く。も。養。生。も。も。ま。ま。く。も。益。が。う。と。ま。ま。く。も。酒。を。飲。む。と。せ。ら。

や。く。病。死。も。ま。ま。く。奉。公。も。も。ま。ま。く。も。益。が。う。と。ま。ま。く。も。多。く
職。事。も。も。ま。ま。く。も。罪。罰。も。も。ま。ま。く。も。ま。ま。ハ。若。生。ハ。長。命。と。も
の。道。奉。も。も。ま。ま。く。も。道。も。ハ。も。不。易。の。道。と。い。は。れ。
各。う。考。へ。身。法。の。ま。ま。く。も。ま。ま。く。も。悟。と。も。ま。ま。く。も
若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も。ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も
お。ハ。せ。や。く。定。も。も。ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も
方。も。ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も
ま。ま。く。も。後。悔。や。う。ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も
ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も
と。ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も。若。生。ハ。道。の。ま。ま。く。も

法苑珠林 卷之三十一 五

聖人此教も君子はいも道はのぶくまきなり。其上吉凶禍福
 天のまのつれなりとたまはるるなり。とんや道とくのも道のす
 かり福と得んともたかり。禍とあきく悪とあてねらふ
 ちとお経とふの如く孔孟のふと教給ふをんらふ福若禍悪の
 河津及び事は商書よりや天道福若禍淫とふた
 色そらも流く悪頑やう民令一給やうをそかハおじ
 ちからん御まともと道はのぶ極あつるやも六教成の方
 便やとやうのすや。同日の漢とわねらるるへい。

天人相勝

翁かしていひれく人衆勝天天定勝人そハ伍子胥吳

王國同とすく。楚國は攻入父兄の仇やまはとて。舊君のま
 の墓とわらう。尸と残すと伍子胥の回友申包胥本ま此
 長あつて。わらふのすく。人志く伍子胥はましくとせき。古
 今の名言とつるも。天ハ必人よから。邪と正は敵せぬ。物と人衆
 くとて勢盛やまハ人カとく。まはらく天は勝すもわざと。
 ちとハ天の、まこと定あつる内の中やわらも。天定あつても人
 勝もとつる。但天も悠久や。自然やう物やまハ人の
 物まやもの。急は其験のゆかとも似る。天は勝りて人ハ、まき眼
 とく。天道と察ふか。多目あつるまどく。善悪此報はま
 ちと見ぬ。け。君子は善くても報はる。小人は悪く

ては... 天定... 顔回... 貧居... 盜跡... 聚徒... 天... 報... 報...

もわ... 又... 國... 賊... 吏... 多... 前... 後... 報... 一... 生... 死... 後...

後... 卷之二

のまろすすや... 其子ら事然の官を監く... 其の畏天之威于時保之也...
はくま事やるし。

夏は世

... 佛の道... 佛の道... 佛の道...
佛の道... 佛の道... 佛の道...

名利より... 佛の道... 佛の道...
佛の道... 佛の道... 佛の道...

ハツウシツク。若くともハツシツク。前ハ納メ道ヲ聞クヲ死ス
ト可カラストシテ之ヲ思フ。納メ道ヲ聞ク日ハ甚ダ清ク
ユレハ納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
清クナリ。納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
納メ道ヲ聞ク。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ

おさるくまの物にかゝりてくま有徳なる故に万物の靈
ハシと及く私智は妨礙する。道とまをす。世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
世ハナシト云フ。納メ道ヲ聞ク日ハ
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。
くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。くまの佛者の頓悟。

かき、こころある限を越え、あつたがひ死をき、みだりも返り、まをて
あつた、こころやまうらた、二月、まゝ、二月、死をき、みだりも返り、
二月、死をき、みだりも返り、二月、死をき、みだりも返り、
死をき、みだりも返り、二月、死をき、みだりも返り、
遺念や、こころあつた、おん、おん、おん、おん、おん、おん、
己の死、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、
ま、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、
ま、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

天、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた、

中よむとていふやうに、そのまゝに書かすといふは、毛詩の類
をく傳ふ。その節、不中、ちとわえぬ、此やうに、まゝに、いふに、
爲、聞、く、か、う、せ、い、と、う、様、す、と、か、り、よ、い、わ、れ、や、い、し、
や、い、し、い、は、い、ら、い、わ、れ、と、か、い、給、ふ、の、こ、い、た、い、う、く、や、い、
ふ、や、い、い、は、い、ま、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、
せ、と、い、は、い、ま、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、
い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、は、い、
婦人の位、まゝ、詩、の、ま、ま、其、史、役、は、い、く、久、き、く、ゆ、い、ぬ、ま、と、い、
て、あ、い、ま、い、の、思、ひ、の、切、や、す、ま、と、い、い、く、

瞻彼日月悠悠我思道之云遠曷云能来こたつ一よりひよりれよりよよりあ

い、く、な、う、日、も、い、い、に、月、も、き、ぬ、ま、ま、は、日、月、の、位、ま、ま、と、い、く、も、あ、い、
と、い、悠、く、と、い、り、の、ま、ま、思、ひ、あ、い、く、く、踏、ま、ま、ま、ま、い、
夫の帰らむ節も、さ、ま、ま、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

百爾君子不知德行不敏不求何用不減是々夫は若や
や、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
か、ま、私、の、情、や、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
そ、い、は、西、羈、旅、ハ、の、後、に、報、復、や、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
ろ、の、名、節、を、損、せ、し、ま、い、ぬ、や、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
君子や、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

長門一

今よむむひくくうふと義の教風景此識のわくふと
表のふふくくふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
有禮主則揮之やわふふふふふふふふふふふふふふふ
時角、よりわくくわわわわわわわわわわわわわわわわわわ

大津の宮の沖うふ大織冠の佐とく其何法わらふととわら
れふふ秋ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
まふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
人わあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
とうふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
のふくわくくくふふふふと豔陽桃李の節ふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
戲すふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
て古の船とそとの樂を流すふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
との絡ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ろくろくまきと上意わすしとなすや。高世の人たつたよと月と
けけ身の程とちりけとどかきあけけり。漆たにりもあやうき物ふ
とよ華麗まじとすすとすけ程よ家ともし崩し。お義のこともま
く誤解せしめよすしむじむじ。或諸侯の家老行つとひひ
万石の身やわじ。其國や登味の時。わしは本陣取
とよききり。路中や。あやわすくぬまなる程よ去國の扉かぎらの
けりり。其と共君が志も高き。いよよいよとんくわ
ふ。六日よ。せけた。いり物とよ。せよと。いれらと。て。國
「高親屬の家や。物頭多し。若者令十支や。とよ。の。積成
威たせ。今高家中。いよ。程の令わ。積威と。い。わ。程。長。

武具ハ格別の扱ひあり。ハ。格揃よ。志。け。わ。る。と。子孫わ。い。と。と
よ。程。あ。い。と。い。と。一。も。あ。い。の。鎖。よ。洋。く。家。に。の。い。と。と
と。又。同。ハ。諸。侯。の。中。よ。世。よ。賢。君。と。稱。す。わ。し。よ。其。家。老。に
子。牙。等。わ。つ。わ。る。ふ。時。繪。け。印。籠。よ。大。き。なる。珊瑚。樹。と。諸。志
め。よ。て。腰。よ。す。け。多。ら。と。共。い。君。人。と。り。わ。り。と。他。日。よ。其。人。と。あ。い
よ。い。く。汝。ハ。衣。籠。を。好。む。と。い。ふ。い。下。路。と。茶。と。い。ふ。い。と。い。と
そ。と。よ。け。よ。と。い。ふ。正。ね。け。下。籠。よ。本。宗。子。と。諸。志。あ。り。て。賜。と
を。い。ふ。と。う。く。國。の。貴。族。皆。恐。と。て。華。麗。と。稱。せ。し。と。や。り。
そ。の。時。ハ。皆。六。七。十。年。の。中。よ。い。は。の。程。は。凡。俗。か。驕。奢。よ
ハ。か。り。や。ら。馬。具。武。具。ハ。軍。装。あ。る。物。は。い。い。ハ。せん。と。い。ふ。

武具ハ格別の扱ひあり

華鹿とあつた。の數音とすす。の用とす。あ
おれん。いれ。まぬ。あま。古き人の。う。う。大坂夏陣。

將軍家惣陣と所巡見の時い。多作源。源惟子とす。て。
青ら。う。う。や。は。佐せら。う。と。や。や。又。加賀の家長。山崎長門
と。い。ひ。名。為。き。武。功。の。者。わ。す。後。々。祝。賀。と。く。困。齋。と。す。以。
翁。其。子。孫。な。は。じ。と。志。は。く。系。金。せ。う。の。事。母。大。坂。を。陣。の時。三
せ。一。抽。と。く。紙。子。羽。織。の。洗。丸。の。お。多。す。多。多。わ。や。わ。と。共。多。り
お。め。ら。わ。そ。等。や。く。其。は。軍。装。の。物。き。す。と。志。り。大。元。平。日。の。服
飲食家他等。よ。無。美。と。け。し。を。用。の。り。以。金。銀。と。費。ま。こ。そ。か
け。う。ま。さ。や。う。と。古。より。大。平。日。變。う。わ。る。と。い。ひ。す。う。う。と。ま。

城攻よりして八月。信州は敗。國事。十日。北。なる。但。長。を。源
と。い。私。欲。な。り。ま。て。上。は。目。と。け。け。お。れ。程。と。志。う。う。事。起。る。も。
東照宮。さ。ら。と。か。し。く。甲。也。て。さ。う。と。信。お。す。お。お。し。但。は
の。驕。と。い。小。病。と。下。と。も。わ。る。う。や。く。ウ。一。才。の。奉。は。限。ら。れ。
古。より。殘。國。の。時。を。將。ら。入。自。う。う。誘。り。力。を。恃。と。敵。を。慢。る。は。
必。國。と。失。ひ。才。と。滅。と。う。の。例。和。漢。と。も。わ。け。く。執。あ。う。た。永。派
天心。の。あら。や。く。い。う。今。川。氏。真。武。田。勝。頼。や。と。り。と。い。は。し。も。上
よ。う。の。目。と。け。ま。く。才。の。程。う。う。く。多。一。旦。の。強。き。い。あ。り
故。よ。は。の。あ。り。滅。亡。志。は。れ。た。の。け。る。き。所。目。や。く。は。洗。わ。ア。そ。は
料。算。れ。と。あ。の。程。ひ。す。す。も。わ。れ。う。う。と。い。は。る。河。を。記。ら。せ

此といふは其相を此へかきしる年もそとわあつて
ひひまゝに流るやうにおもひなき程の年やうも思ひ
ぬよ其時つゞき其まぢやくひたきしちひやくと
よわやうと一なきひひやくとちやくひ先すあ
らば年あつたやうとまゝにゆくはやくとひやくと
とてやひやくといふも相を及ぼすまけく
なわ彼老人の佛の体ひやくといふとこの年此
やうといふまぢやくとひやくも遠くはやくと
よきまぢやくと早返がうとやくと漸くはやくと
ひやくのうとやくとやくとやくとやくとやくと

年とよ秘すハ曉中くしやひやくもやくと
と目わくよすひやくとやくとやくとやくと
わやくとやくとやくとやくとやくとやくと
ひやくとやくとやくとやくとやくとやくと
の覚悟とやくとやくとやくとやくとやくと
人のひやくとやくとやくとやくとやくと
よハ虚見やくとやくとやくとやくとやくと
のす也今此世は鉅儒と称する人こそまぢやくと
まぢやくとやくとやくとやくとやくとやくと
むやくとやくとやくとやくとやくとやくと

後と世よりてと云ふは、自り中を聖賢の如く
思ひなれりや、此れ程と云ふ所のまゝにまはる
しと云ふは、人とは偏するまじしと云ふなり

仁ハ心入り、のち

わす対例のいこち中、ひましく、仁義の
後、及ぶ事、中、仁義の人とは天地の心を得
くこと、天地とる物とすまはれり、いこちするは、そ
まじと得くことす、仁ハ人とは心を得くこと、仁義の
す、勿論、仁義の仁ハ心之徳也、仁義の理とす、
仁ハ徳とす、仁ハ義禮智諸徳に仁は、仁義の徳とす、仁義の

仁ハ仁者と包く、義も禮智も仁よりまゝく、仁義の
の講、仁義の仁ハ心入り、仁義の義ハ徳とす、仁義の
す、仁義の心とは、仁義の心とは、仁義の心とは、仁義の
知多し、仁義の心とは、仁義の心とは、仁義の
す、仁義の心とは、仁義の心とは、仁義の
す、仁義の心とは、仁義の心とは、仁義の
す、仁義の心とは、仁義の心とは、仁義の
す、仁義の心とは、仁義の心とは、仁義の

多きしを以て前用はくは今やいふらに事すありもちのひさく
支拂はすに還は日了後一あり不_レ致しくしるま_レのしよ_レの
と。致_レてくはくしるにせ_レ人の元氣お_レる
とく人の元氣を_レ致_レせしむ_レ元氣を_レ致_レせしむ
と致_レ脈_レが_レ致_レせしむ人死_レま_レれしむ_レの_レ致_レせしむ
物_レ心死_レま_レれしむに_レは_レ心_レ死_レま_レれしむ_レの_レ致_レせしむ
活物_レなるより人_レの_レ致_レせしむ物の_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
多_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
せ_レら_レの_レ致_レせしむ君長と_レん_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
は_レひ_レを_レ致_レせしむと_レん_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ

は_レ義と_レ聞_レくは必感_レす_レの_レ致_レせしむと_レん_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
と_レん_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
畜木石の_レ痛_レさ_レ痒_レさ_レも_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
は_レ義と_レ聞_レくも_レ恥_レれ_レ事_レや_レん_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
礼智は_レけ_レる_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
は_レ不_レ仁_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
は_レ公_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ
は_レ仁_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ_レの_レ致_レせしむ

後漢書 卷之二
七
八

ふ下はゆきをわすとあましく。其ははくしきく望みの
物銘しとく相列也條此幕下。佐野の城に天徳寺豪
健の勇將やろく。ある時琵琶法師と招く。平家と藤
原とく風之助。ある信くぬ先は琵琶法師より以てある
其と多くあまきやあまきとき。片あそめし。其と指し
て信くしとく。信作ら得るをく。佐く本回命高徳と
治川の先陣と信くぬ。天徳寺あましく。あると。西条と信く
さく。今一並おれとあまきやろく。平家と信く。那次に市
宗高の扇の的と語るぬ。平家平家と天徳寺あましく。流
淚數行。及たり。後日は家長此輩より。日此平家へ。

まはけるといふ。家長とも。たおろく。信きやましく。但我
等もかたのを得ぬましく。やあ。お後二並とも。勇烈な
るましく。あまきやろく。ましく。もいぬぬ。平家と
か感涙の咽とまきく。信く。このましく。ゆや。今より
不審やろく。ましく。信きも。あましく。天徳寺あましく
信きく。今より。各我頼とく。黒いゆ。今此
一ましく。ましく。力あましく。信作ら。先陣あましく
合点ましく。乃らましく。頼朝舎第に蒲冠者も。賜く。流龍
臣此梶原中と多ましく。ぬ生鳴と。高綱も賜る。あましく
やまきけ。其甲斐もやろく。け馬も。宇治川と先陣せ。

後巻附信
卷之二

文通も或るも内よきと注送して潤ひもつて安するに
おぼろもまハ真れものよわんは是則おもひ人ハ情おも物の
まよとまのの心おもすんも後くの言行ともよ義理
よあつともあつとも其のころの心おもせく天徳寺清とら
まやうにあまわんは是の徳の全きあま仁若とも今わあ親おも業
義らん丹ま

在中神とて仁とん丹使して巻の理するまはくりを
命まき、仇れ今つねのまき無仁ら丹全使中く四性と色徳
よ四性の中よ神とてよ義らんと掲かして仁は對して仁
義中一りやん義も仁はとつてつと大切なるものとみえといけ

序よ義字の意も事多しやとつハ前人よ仁義
おのハ玉ハ陰陽わらつとつとよあめは易中も立天之道曰
陰與陽立人之道曰仁與義とつとよ六軌元ハまよ居て
四時と統すやつとよまよまよまよも秋ハ肅殺するやく殺生
の功とつとよまよまよ人道もよとつとよ仁の四者と色
もつとよまよ一命も自をすれとつとよあお殺とつとよ義の裁
制やつとよん丹生道と換して仁も七ひぬ後、前つとよ
初事此人よ一信らん義らん丹まきまやるも事事も心之割る
之直と信し終るもん此割らん丹まきまやるも事之直ハ事此
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

後卷卷之二
世二

かろあくる仁は心之徳也之理とありぬ。是の如す。こゝに
徳ありて之の如くは徳と例なり。是の如くは日用行事此
くも取與去就の如くは事と合翻不斷の如くは
いづこも通達は高きまじらぬ。是の如くは荀且
用循を術と教とあたるとの如くは過を改ると各ありて。是を遷
る事速かりぬ。又この如くは徳と例なり。是の如くは
是の如くは其の如くは下地とす。是の如くは孔子も君子此の如
論し終る。義以為質と云の如くは又坤の六二を論し終る。
敬以直内。義以方外との如くは又剛達を論し終る。質直也
と好義との如くは是と云く。義の簡要やうな事と云く。

あへん其害とば仁義の仇とす。物に如欲す。徳に如欲
わらぬ。邪智は偽也。外物は引き。不の仁は情也。哀
と云く。すまぬ。是の如くは徳と例なり。是の如くは
ぬ。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは
多し。六本。其の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは
稿。同。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは
か。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは
其。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは
一時。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは
よ。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。是の如くは徳と例なり。

徳義の如くは

顔子にとするは孔子克己復礼とて終始一貫して礼を天理の
 文人事の儀則とて六腑と検するに防閑ありて私欲を排
 枯する一日修むれば僅に一足は拓るに非ざるに
 一歩のゆるぎありしや刀剣の剛とあるに似て天理流行
 ては其徳全うして但顔子ともやらず天理流行の分よ
 て判然として鋭なきの故よきに進修の目と同然して其殊
 の善若く念慮行事はよおるに天理流行の分と真
 子如くも志を私欲にせずとも難くしる故に孔門
 の教は性理と約礼とを大なりは致知と誠意と正心
 といふとて中庸と孟子に仁義とを主として礼者とす

今川
 所謂今川
 といふ山の
 今川了俊
 の家訓の
 壁書

仁義のむらのはらぎ。易の聖人の徳と論。知宗礼早
 かり。知宗八天の。禮早に地をいふに宗の心
 早く。成始成終の道なる。あの故に張渠の張夫子加れ
 とて。教とて。知禮成性の改わ。そのまじり。張渠
 は限らざらん。濂洛関閩の学とす。格物よ。けり。知と
 成。持敬よ。り。れとて。は。孔門の学。若くは。法は。

浩然の氣

弟幼少ありて。内世とて。や。今川。の。

集義すべし必定一才わたりて必ず最力わたりて必ず
下りて必しも世に人なきに助長と助長せしむ
忘る勿忘勿助長やんやんぬらぬらと云ふすれども忘れ
しせば助長とせしむて人れりて是れ用也六のけり
と云ふは又と云ふはして浩然其氣もたまふはたまふ
先儒と云ふ持敬の法と論すは持敬もまのこころ
うはらへしと云ふは敬と云ふ儀然やしてわがこころ
わらへしと云ふは敬と云ふ儀然やしてわがこころ
と云ふは拘定すは他病と云ふてその害忘るる名も甚し
朝鮮の李晦齋のひりやふふふの鶏卵のふはわらふとし

勿忘の字よりすも忘ぬやうも忘るるは六のけりし勿助
長ハカと、ましく握るのめぬたも握るのむま六握る慣
ふふふのふと體過る。持敬は法と云ふと云ふ
存心集義二致は多きは持敬養氣二法ありては是れ
管要深切れすやうも一場の法話とき修するは
敬此工夫

在仲也と云ふ敬字此義を經集此は最詳明親切ありて
中此義もやまやうやうも敬此工夫ハ是れ才一才す
くははし一節の思ひやうもあらずと云ふ敬此工夫ハ
といふ翁はと云ふ經集此とき修するは翁といふ文の中

まハ侍らば。但後集此はわきま。及後切要。うけか。二。吾
黨此學者。好く。れ。遊。く。し。や。む。り。く。や。ま。く。ぬ。れ。し。き。
及。く。後集。此。も。し。う。つ。ま。う。く。ま。く。さ。く。信。翁。の。常。
人の。く。ま。て。俗。流。は。し。ら。け。く。多。く。以。教。ら。ん。此。は。し。き。
ま。ま。し。て。下。り。て。ゆ。る。や。う。ら。れ。も。や。ま。く。ぬ。れ。し。き。未
の。ち。ら。ぬ。や。う。に。才。の。多。く。と。や。れ。や。う。ふ。す。此。用。け。け。や
か。た。や。う。ふ。そ。や。く。敬。の。つ。つ。ま。う。く。し。き。け。前。の。流。
る。く。儀。ま。や。う。ふ。そ。も。流。り。く。及。く。ぬ。れ。し。き。や。ま。く。ぬ。
よ。く。も。易。く。及。く。流。り。各。は。流。り。は。験。て。凡。流。り。主。
一。を。適。も。常。惺。く。法。も。け。外。は。わ。き。ま。す。や。ま。く。ぬ。れ。し。き。新

盤水 輿
い入九水

一。ま。中。存。心。の。も。天下。よ。ま。至。極。大。切。や。く。又。至。極。多。り。ら。流。き
よ。の。ち。け。ん。や。く。い。孔子。も。か。入。無。時。莫。知。其。師。との。流。り。至。極。
一。其。至。極。大。切。や。る。為。成。粗。略。よ。く。一。至。極。難。持。よ。の。と。ん。等。
存。知。の。程。よ。け。心。放。逸。す。る。と。て。諸。悪。も。起。る。ま。す。も。や。ま。
そ。う。の。ち。あ。つ。て。八。敬。の。大。切。や。て。わ。き。ま。す。も。あ。の。つ。心。
や。く。い。方。の。執。玉。捧。盈。よ。も。く。一。ま。き。ん。ら。る。と。は。也。今。也。
寶。玉。と。も。盤。水。の。盈。る。を。捧。け。は。少。く。も。多。く。ゆ。る。と。は。氣。
を。ゆ。り。さ。る。や。く。わ。れ。ん。其。心。や。く。を。多。く。も。持。敬。と。い。や。
ま。ま。と。も。わ。ら。ら。は。と。難。や。ん。盈。る。も。捧。を。け。さ。け。ん。は。執。
わ。く。捧。け。し。よ。ま。す。中。に。し。よ。ま。す。も。あ。く。や。む。ま。す。わ。れ。

黄勉翁
黄幹 朱晦
菴の釋

いほこしとひとくくんと神妙靈活なる也やそく山原多しはし
 くそ為やうくはらぬものやそくあるは人へ接すあるはまよ
 きふはひずれはそく障るものすれはそく石有はそく川ありて
 彼へ移るべきは福の水のほとありしそく。そ根根根とまはし
 くとすまよおとひらううすまにそく麻はそくころころとて
 荀子のそくと偷心といひ釋氏はそくと流注想と名づくそくと
 系人あるは持病やると。今翁はそく此むきそく真直ありそくと
 うそくゆとぬやうはそくいつかそくとそくと療する主方とよそくと
 火とくそくと火に屬する也やると。そく此むきとそくいつかそくと
 へそくと礼そくと用とよそくと。黄勉翁のそくとまよやうそくと

一炬の火またそく其本を燃くはそくと火とそくとそくと火とそくと
 けそくと風もそくとあるそくと火とそくとそくと火のけはそくとそくと
 ゆらゆらたりそくとあるそくとひたそくとそくと光そくと打ちそくと。滅あは
 翁のそくとあるはそくとまはらぬやうそくとやうそくとやうそくと
 まはらぬやうそくと此わけのまはらぬやうそくと。常はそくとそくとそくと
 そくと此番人かとそくと。まよとそくと。常はそくとそくとそくと
 常はそくとそくとそくと敬そくとそくと此目付をそくと。今敬そくと
 と翁はそくとそくとそくとはそくとそくとそくとそくとそくとそくと
 そくとそくとそくとそくとそくとそくとそくとそくとそくとそくと
 良茶たるそくとそくとのよそくとそくとそくとそくと。茶はそくとそくとそくと

四十年より後すたる。其同一人も今ハ若くは其のた
アとく。翁感懐つやゆくと見えし。

民と王者ノ天

わが時論語御黨篇の講記註の式頁版者とわらふ
はさめく翁満安と對して王者以民爲天民以食爲天との
意いん若くは是れをいハ。在中に民ハある邦のいハ
ア。民爲と云ハ邦存し。民後ハ邦亡し邦の存亡は民に
故に王者は常に民と尊て天と人。食ハ民に命をあたふ。食と得
まハ民ハ食と失ハ民死す。民死すハ食をわら。故に民食
と云く天と人といふをわらわらるるハ翁の言ふことと見えし。

上下をよきよくゆる。是と云ふも亦論農と云ふすの
主をいへり。いふもやふ。天をく人とす。又五穀を世
て人の食と人わきハ食をわら。食をなまは人か。天下豈
食をわらまきわらぬや。民ハ天下此爲。食とすすは人の
そまは天より。王者はけけ給ハ。王者は民を作する。
天より多し。一丈も好慢くくハ。是は若く諸國の民
數とあるハ。籍と王に獻す。王も籍く。又作の孔子
も民數此籍と負く。式は給とわら。又民に
くも思ふ。天より家人命と續かる。天下此大切や。也
と我等より。一にて他とし。民ハ食と作裁てたと

頭會箕歛
人口を精査
し重税を課
すること

一く一や。かきも耕化と粗略すく。凡そ凡俗の本治
 亂此係るおちく。今其の情と下りむじり。この代の代々
 民も。天とすの。つあるぬ。租税と薄し凶歉と極ひ困
 厄流離さる。すなす。志むよ。て郡縣の民土著。安し
 農業と。米穀と。て君と。奉。食と。て天と
 せ。ハヤ。其の。市朝中。移。ハ。太夫と
 ぬ。商賈。天根勤儉。華。ハ。情
 の俗。暴秦。て民と天や。す。ハ。郡國離
 程。頭會箕歛。民。虐取。や。ハ。郡國離
 殺。四方土。崩。天下此。民間。起。炎

漢起。天下。秦。事。ハ。遂。射利。後
 川。富商大買封侯。ハ。食貨の。恣
 村。民。化。豪奢。遊俠。事。賈
 治。安の。疏。見。ハ。民と天と。ハ。郡國
 告諭。租。免。後。賜。郡吏。貪欲。ハ。上
 孝。力。田。下。成。率。ハ。務。ハ。崇。ハ。抑
 恭。儉。ハ。厚。致。ハ。代。後。治。世。ハ。後
 乙。ハ。考。ハ。代。格。別。ハ。後。世

江戸に於て郡縣は風市朝に移るるとよ。市朝の凡そ郡縣は移るハ
わがく其故は市朝の凡そ奢侈と貴し郡縣は凡そ樸素と
矣と云ふるを市朝は市朝に非ずや。國は貪るを此に使わし
御は貨殖の家にあつてはけとも公は此に極まりては貨殖とをさ
くとみゆととも私を利欲とけとめ。宴樂好まるとはけし
とこと私智を逞しては己の悪を隠し。とて欺き人と極つと
とわし。此の謀とけは是を成きくと。食膳美とけし。飲舞艶と
競ひ。一月に費數百金。及んと。およそと凡流と。たけとも。思ハ
こぶ。と倅をふさむと。く。た。て。と。と。神。と。あ。く。と。世。成
え。し。と。國。舎。人。と。と。く。那。り。聚。り。と。あ。ま。と。嘲。笑。り。行。ふ。事。を

の齊語衆楚人。味し。き。再。魚。移。け。け。わ。よ。一。流。の。凡。と。さ。り。と。
國舎あくと。思。よ。お。よ。ひ。す。た。る。し。華。夷。成。け。と。め。詐。偽。成
り。お。よ。ひ。と。や。け。し。や。と。ま。ま。と。ま。ま。し。れ。か。世。あ。と。す。て。驕
と。貴。ひ。ぬ。ま。け。の。費。用。造。か。た。の。け。け。を。こ。り。已。の。諸。款
と。使。り。す。は。い。令。銀。な。ま。ま。け。か。た。の。私。ま。行。ふ。あ。い。か。く
令。銀。と。貪。り。も。と。め。さ。る。ハ。た。り。と。あ。ま。と。く。天下。に。金。銀。常。と
有。力。人。の。あ。ち。と。兼。并。せ。と。ま。く。た。の。け。け。と。流。り。と。清
ふ。と。し。と。ま。り。と。金。銀。と。世。成。歴。と。減。し。と。米。穀。と。年。成
ゆ。く。生。す。た。の。た。や。ま。け。金。銀。と。日。と。貴。く。と。米。穀。と。日。と。廉。と
食。派。の。ち。と。い。や。と。米。穀。と。と。く。貴。き。令。銀。と。易。と。行。ふ。

家貫、少くも、は、貨殖の家も、貴き金銀とて、や、
 キ、本穀を買、家貫、少く、餘、あ、る、有、数、の
 金銀とて、無限の驕、成、ま、る、有用の金銀とて、有用此
 物、貴、く、なる、金銀、日、は、虚耗、して、わ、あ、ら、ぬ、民間、流、行
 せ、ん、ま、り、て、粒、米、狼、戾、と、極、め、く、價、廉、な、ま、る、同、室、に
 貧、民、ハ、さ、も、い、は、れ、る、もの、と、む、か、か、な、ま、れ、ハ、富、民、ハ、常、に、膏、粱
 一、厭、と、し、が、さ、も、と、葉、色、わ、る、人、あ、る、富、民、ハ、常、に、肥、甘、
 飽、も、が、さ、も、と、餓、死、す、る、人、あ、る、中、に、悪、性、な、る、者、も、自、ら、死
 せ、救、ん、と、く、ハ、法、禁、と、も、犯、し、盜、賊、と、も、す、り、せ、う、お、お、り、
 見、ゆ、世、の、困、窮、な、る、故、に、さ、も、と、あ、る、か、ら、ま、ら、ぬ、の、は、流、行、倍、に、驕

老、と、し、起、り、て、一、お、一、夕、死、す、ま、あ、ら、ぬ、さ、と、し、け、六、七、十、年
 の、あ、ら、ハ、世、ら、今、も、さ、も、と、行、禁、華、な、る、と、さ、も、と、驕、吝、な、成
 ぬ、む、れ、倍、と、わ、さ、す、り、候、ま、と、あ、る、の、人、も、あ、ら、ぬ、あ、ら、ぬ、と、さ、
 と、い、は、れ、る、と、し、ま、は、比、お、代、れ、老、わ、る、困、窮、の、こ、と、も、い、は、れ、る、
 其、人、に、わ、ら、ぬ、時、を、も、と、屋、を、草、野、に、起、し、て、汗、馬、野、を、
 ま、や、も、と、し、け、華、老、風、流、の、ま、ら、ぬ、ま、ら、ぬ、其、子、孫、も、家、風、
 習、ふ、と、い、は、れ、る、思、合、風、な、る、と、い、は、れ、る、お、お、り、
 わ、ま、る、が、さ、も、と、虚、や、し、く、實、な、お、は、れ、甲、斐、く、と、く、頼、
 く、あ、ら、ぬ、ま、ら、ぬ、情、あ、ら、ぬ、け、り、の、十、名、に、此、人、も、さ、も、と、
 在、朝、の、末、夫、世、孫、は、落、し、泰、平、な、る、ま、ら、ぬ、ま、ら、ぬ、ま、ら、ぬ、
 在、朝、の、末、夫、世、孫、は、落、し、泰、平、な、る、ま、ら、ぬ、ま、ら、ぬ、ま、ら、ぬ、

宴安との、悔く其鳩毒の計を、とて、以、諸委、淫、使、の、
事、も、あ、や、し、む、あ、ら、ま、ま、く、化、質、殖、は、家、遊、使、の、位、を、論、す、
す、ず、の、所、に、た、ま、六、其、弊、那、縣、中、も、移、ら、し、く、今、と、く、も、田、倉、
ふ、さ、ひ、の、古、の、の、ら、ま、く、市、切、と、も、同、一、地、中、も、あ、ら、ま、ま、く、
民、の、あ、ら、ま、く、一、て、鹿、暴、す、ら、ま、く、大、悪、と、す、れ、人、も、あ、ら、ま、
一、葉、あ、く、分、別、す、ら、ま、く、程、は、程、は、降、く、八、已、の、怒、は、あ、ら、ま、
て、あ、ら、ま、も、あ、ら、ま、も、大、や、市、切、の、人、に、邪、智、と、す、て、人、を、た、
ら、ま、の、は、や、し、れ、す、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
惠、の、感、一、や、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
あ、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
あ、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

人、民、と、天、と、す、ら、れ、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
と、と、下、一、仇、を、此、患、す、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
と、相、計、ら、ひ、お、よ、け、民、業、堵、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
さ、ら、ま、ま、く、條、法、と、設、け、く、威、刑、と、ま、ま、ま、ま、ま、
と、禁、一、ま、ま、一、邪、感、服、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
縣、一、統、よ、か、く、わ、ま、ま、ま、ま、其、以、お、の、け、く、布、給、お、も、移、ら、
今、市、朝、と、わ、ら、ゆ、れ、人、教、黜、一、と、ま、ま、も、天、下、に、那、縣、と、比、せ、
十、方、け、一、ゆ、も、あ、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
も、移、ら、ま、ま、く、況、也、何、れ、那、縣、各、安、堵、ま、ま、
其、風、天、下、へ、移、ま、ま、く、樸、實、日、は、後、華、靡、日、は、滅、一、
あ、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

第五倫漢の宰相山直無私を以て著す

子どもあつた又其最悪性なるもの貸とぬすも能く見
てていふは人の心もつと火をけらるるあつた
ゆるさるる人あつた若くは得たきよ起り出とも畢竟華表
とよのしは流弊やくいふは市朝の奢侈を抑へ於縣は困窮
と賑ふはあつたやうなり

天下第一寶

すもことちよも太平而も及ひはたつた奢侈は
奢侈と抑へ侯素と崇んとあつた侯廉直士と撰んく官
る志むらわす號令科條の及べきわら次第五倫くらむや
以身教者從以言教者訟官長又いふは官は畏慎てか

二典書經の
舜典曲禮

のけりしあつた官長はけりし條は作とて教とて其
下年法に服せし法令屬下まといふ多まつたやうに
治まつたし而後官長その人にお致さるはやうに
政を法令と願へりしはとて法令とていふ人か多し法
虚しくいふは孔子も爲政在人其人存則政舉其人亡則
政息とのあつた前著ある故人の家を會て二典の文と論す
曆教のすま及へり前著ある歩歴の法は虞書に見えり
後世と強くえよと精志いふはそのあつたは
かの義和の命を候せしむらや及ばるる人
やハソクといふ天の運動のあつた運動の人とて候せり

後漢書卷之二

贓收財也
官吏
魔を放つ
魏の明帝
王たりし時
父帝ニ從つ
て獨り度
子母あり父母
度を射て子ニ
魔を射て子ニ
魔を射て子ニ

高くとも其きけり一の命微かるるとそ之に勝はると之は地を奪
はよめゆに神人の力なきと審みさるる聖人故天は之を
おれさせやつて其國を治してゆく感服一き天度八萬有
ふ易やく遲速盈縮常ある地を治するも動物やも一定
法の及もさるおあるさう。況や人の變動常なく。是れ互に
及べ偽偽ひは。一定ははとてあまきまよあらはあめ
材の取へなきとも。畜夫此利はと張秋之とを黜る。賊ハ罪を
多きとも。操吏の負首ハ吳祐ありと書く。魔を放つて
託國の仁とすと。卵と盗らると干城此將とすと。孫弘の布
被ハ儉に似く。矯情此姦とすと。郭子儀の大若欲ハ李元似
子母あり父母度を射て子ニ魔を射て子ニ魔を射て子ニ

卵を盗めども
用ひず子思
物奪つてか
了を説きて用
柱に膠し
規則に拘泥
知らざるこ

子思尚變を衛侯ニ薦めて將とせむ。侯變ハ嘗て民の鶏卵を懸取せしを以て
て浮行代議と賂されど。一定は格は泥んで。萬變此也
と割せんがらけは。もゆに柱は膠を。琴と鼓。舟は刻
劍と求るがら。い。く。變はわひ宜き。か。ち。あ。ま。多。其。人。を
得てば。と。ふ。ゆ。神。は。ゆ。く。む。操。能。進。退。時。を。ま。り。
よ。ま。り。と。變。通。する。程。は。は。と。用。て。は。よ。用。し。ま。は。は。華。と。膠。
て。は。華。は。膠。を。と。ま。り。さ。や。よ。く。官。は。お。す。ま。は。は。は。
國政は。ま。洋。る。ま。あ。ん。げ。し。ゆ。と。衆。も。服。し。て。日。は。治
平。ち。ら。び。し。し。ま。は。は。天。下。此。寶。や。あ。の。材。は。選。り。お。わ。り。き。
あ。の。あ。ま。楚。は。白。疋。と。寶。と。せ。は。て。質。と。寶。と。す。や。孫。圍。ハ
ひ。し。す。楚。語。よ。入。る。や。梁。惠。王。吾。國。は。徑。寸。の。珠。お。ま。く。

後漢書

卷之三

七

車代は後十二来と照をせとく。齊の威を誇らしき六威と
寡人四臣わたりて御を照をけり上来の御成敗を
きゆへ惠王も慚る色ありて御成敗をけり
きやひの感へなる

東照宮は済すやとある時一役人聞あらずわたりしに
老臣よりくと代りて作をせしきや思ひし其公の
やう御成敗を御成敗に共に入りて御成敗の
いへり人物は御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
とて御成敗の御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に

回てちらぬとてわたりて御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
き中にも御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
おれども御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
たより尋りて御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
も存知せぬとて御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
ておもき職を御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
そおもよとて御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
持極の人を御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
その御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に
こいへりて御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に御成敗に

具の類より物理をわらとすべし。いふは、やうやうとすべし。これ
と見せんと思ふは、よくいふ。わりの名地や、もつれ、徳家、れ、用
よ、あ、次、か、く、ても、す、た、ね、よ、の、や、ま、さ、ら、や、寶、六、中、此、裏、と、く、く、
人、よ、さ、め、た、れ、ら、る、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、
の、や、い、だ、の、返、答、を、は、す、り、き、の、い、さ、く、は、な、る、の、ゆ、え、に、出、入、を、い、
れ、く、る、を、立、身、さ、ら、す、事、と、い、ふ、も、く、く、徳、士、れ、ん、あ、り、わ、い、く、な、す、
て、持、家、の、い、い、論、と、い、ふ、や、せん、は、さ、く、八、塵、下、の、七、恥、と、い、ふ、
義、と、ち、ら、八、個、家、れ、え、れ、れ、の、い、さ、く、も、く、く、諸、士、の、い、さ、く、も、く、
い、さ、く、く、恥、と、い、ふ、鼻、と、い、ふ、曲、と、い、ふ、も、く、く、具、と、い、ふ、い、さ、く、と、い、ふ、

やうに、か、く、と、い、ふ、き、な、げ、の、い、さ、く、と、す、り、と、馬、偷、り、て、義、と、
ち、ら、ん、か、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
國、を、家、れ、え、氣、義、と、い、ふ、や、う、て、敗、亡、と、い、ふ、く、く、く、く、く、く、
く、く、及、汝、等、の、い、さ、く、と、い、ふ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
作、わ、り、い、れ、れ、と、い、ふ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
宗、廟、の、基、が、あ、り、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
代、は、吏、部、や、常、の、一、卿、の、よ、う、居、く、あ、り、人、材、と、撰、ぬ、ん、

後漢書

卷之二十一

十一

己の職とて其外同僚の如く不職の材と保任して朝廷に
 登進せしむ奉ることをしむる也。わきや後世の如く古述曰く
 善く君相よむと急務をせ次常人の賢人と志るは心な
 るは選挙の乃あらずとて治用宏詞身言書判の末やよ
 ずるは吏部をくへん才詮衡の職にあらずとて簿書日抄令
 たりと志るある也。そのけとわく才非ん職とれ失ひしる
 付くさくちのわくも況や本朝よあわく鎌倉よすて日本君相た
 るへいさくも及みずとさう次志らるるは嚴令ひきいてハその
 との荒長あつて人あまらざるは將諫勸をくどの盛意よ取順する
 者わだんじしに治世以後人材軍出度政脩奉り文明

諫
 懐誤

の用事て天下泰平の化は浴せざるハやうし。そは

東照宮の遺沢よわたすや。日如奉作も物とわらふまは

風俗ハ政ハ田地

まらるる天下國家中の風俗といふ物も大切なるハやうし。表の
 の威ハ天にやう。其也る言するハ雷のよふまは。背く言なれ
 とも。世法よ大辨もまらるるといふや。一世の風俗ハ務はじ。
 さるは號令はげも。そとや一遺とあるやうなまは。そに
 かよ風俗よまらるるといふ。わあひくは達一がく。なすく末
 まて。遂らる程も。多々局面を。そをたは。く。て。風俗のまら
 よわらるく。やじ。く。名。ハ。風俗と田地やる。政ハ穀種也

こと。ふらひ嘉穀のほくも。地うへに。あましく。と
 ろ。あつて。ふらひ。と。若及。長は。い。と。凡俗。その。く。れ。と
 ハ。は。ま。か。し。穀。精。の。と。く。ん。ち。と。欲。せ。た。地。は。い。り。す。う。よ。志
 く。ハ。ヤ。政。治。の。は。ま。ん。ち。と。欲。せ。た。凡。俗。と。く。の。ち。う。と。ハ
 ち。う。と。凡。俗。の。も。ち。う。と。人。君。は。あ。ま。わ。り。人。君。あ。ち。人。君。を
 お。ち。う。と。下。化。し。う。と。ち。う。と。不。易。の。返。か。る。と。人。君。の。あ
 ち。う。と。い。ち。う。と。ち。う。と。人。君。あ。ち。目。を。あ。す。ま。ま。と。い。ち。う。と。あ。ち。う
 善。通。と。い。ち。う。と。堅。ま。す。と。世。は。凡。俗。と。ち。う。と。急。は。政。ま。す
 ぬ。あ。ち。う。と。中。の。悪。は。極。の。は。ま。と。い。ち。う。と。極。の。は。ま。と。い。ち。う。と。今
 凡。俗。と。欲。せ。と。ち。う。と。い。ち。う。と。わ。り。ま。す。の。と。好。の。ぬ。や。う。と。い。ち。う。と。ま。ま。

も。は。あ。ち。う。と。凡。俗。と。維持。す。と。い。ち。う。と。凡。俗。と。維持。す
 子。事。と。君。一。人。の。力。や。と。及。う。に。時。は。執。権。と。く。と。い。ち。う。と
 後。の。官。長。と。い。ち。う。と。群。下。の。よ。と。い。ち。う。と。人。君。を。た。と。い。ち。う。と。け。く
 身。と。あ。ち。う。と。慎。く。人。の。手。中。や。や。の。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と
 下。よ。あ。ち。う。と。人。あ。ち。う。と。い。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と
 今。も。う。と。い。ち。う。と。凡。俗。と。欲。せ。と。い。ち。う。と。今。は。凡。俗。と
 ち。う。と。い。ち。う。と。凡。俗。と。欲。せ。と。い。ち。う。と。毛。頭。も。い。ち。う。と。凡。俗。と。欲。せ。と
 天下。の。事。と。い。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と
 の。聲。と。い。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と
 末。の。途。と。い。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と。あ。ち。う。と

後醍醐天皇

上の所盛佳の翁はさきつねがあらぬ子なり常に作さす
 本なるまはらまて一磨し諸役人よりてなまひ...
 上の所翁よりけり人あるべき事とて名はぬらあり
 心なきよりなく無人事とあるは信わらざるにありや
 所翁より方治寛文のころありとて世は鶏とやして貴富の家
 子よりよき鶏と購てきてやつ経よ其價もたつては漏價
 けたる阿彌豊後も忠執も其の鳥とすまきて常に忠と
 官側より重ておそむてきたまはらるる列侯より入ま
 きて其の後世もこれなき鶏と厚價よりいふにや
 子言醫とてくちきたりぬはけりき鶏とよみぬて

踊貴は騰
 歩に同じ

此所録し進一多きこといふをまゝこの官醫豊列れも
 ともあはれ其方と違して所もいふにやいふは
 わらざるにいふも豊列きたりてまゝよくたつて
 してやうかくいふ事なり。まほしくたつてをわらぬ
 中へ豊列の口とかななれどもむけやむをねむるは
 ひげなきは其口とのまじやうなきことあるは皆あけなき
 轉動してはれとていふまじやうの友醫とてふまじは
 なく此子別に鳥とて又立論の心なりといふ豊列のや
 ろくはなほ今日よりあきらむに故らわれやてゆるさる序なり
 隆平よ某ことありては所盛光中へ人執りおもはるる

ておすすまきまやぐはる某ふたしゆゆと鶴とすまは
ふはあうにまこゆはんとはひくは向後と好いと務すまは
やめはらむといふははの友醫も手おめくといふまは
まあまはまやめといふ人の志といふはくはつめしりひ
くもさうわらまきととの所為と志ぬおしていふは初めすま。
世の風俗も務すま。持威やもまはまのすまといふは
ままといふはまはくわまはま。其の所同くは執持のたはまは
は中まはまはくはまはま。はまはまはまはまはまはまはま
らまはまはまはまはま。事の役人まはまはまはまはまはま
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま

俗の上をより移るとさるまはく又下をより移ると
わらまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
濁り下流流るるといふは下をより移ると下流泥塞と
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
富高大賈の子弟武人俗吏の悪党其の市井を頼の徒
日東娼家戯場とまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
凡そはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
もわらまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
わらまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま

かのすやへ又りよる必きと搜捕志く下流の泥流
後文し志く今比屋の賤民も日く府廳へ子を
まねるも究告すすおまて官へ訴るんやして
も大るうに物れ義と志く保た母らよ府廳の賤
びひ玉つていすの子細とくりく陸するすわん
ふまよ一吏さく推怒のんや威勢と募る保あ
やも女個はなるすおまハ嚴謹せよと一とわく
口と相違すすおまは詰回せよとよやと尋ふ
の江わんくも府廳へ保とくやんく雑すといくの上府
廳ハ多しちよく尋方保とくはよかたのよと

中へ手よあひのく多し保すややくも保ア
多くの日く志と保ら保は長ら比隣什伍相共よ
廳ハ多しちよく尋方保とくはよかたのよと
保よと志くよと保ら保は長ら比隣什伍相共よ
次わくハ姦賊悪業いくも保は長ら比隣什伍相共よ
きく又と保らする多し保ら保は長ら比隣什伍相共よ
悪と後治せんやちよく保は長ら比隣什伍相共よ
け人と擇く其長らとよと保は長ら比隣什伍相共よ
とまよすく府廳へ保ら保は長ら比隣什伍相共よ
嚴少比隣保ら保は長ら比隣什伍相共よ

信治 改め治
わろ 信は俊

凶狼性よこ
 一より一人に
 ちからひ争ふ
 こと

壅滞 あせが
 りといこほろ
 こと

凶根ありて人のまじりて衆目よわまじりての悪むる者た
 るとい其人國家の法をたつとすまじりてとすまじりての
 もまじりて告まじりてとれやうや其場中へ金改の上は
 科なるに違有するゆゑ科なるに禁獄もいへさせ進て
 金改の強と委ぬは具物し其人と争せし府廳に遣し
 て廳への處決と作らるるやちわお府下のくち争ひのよ
 やくも官に達するよ府廳にむらの争ひなく府廳も小廳の成
 獄と文と聽乃そ六日と應對簡易ありて下よを新しきも
 壅滞とての患がうるるにそ進のむらも以下の悪黨郷
 曲のふるも隠るきやうなる人庸行とけしむるを奪く

面革 外面
 たけと革む
 こと

杞國憂
 天 列子に
 杞國有人
 憂天崩
 墜

急に感服するまじりての面革は、あつたてりて
 日月と竹やる凡俗も漸く改むねど、多官長ある人たう
 た 此 事とやまの姑息と安んじ、其下と治らふと法とて杞
 さ ね 子思ゆゆき、のこりとよりとんそまじりてハ凡
 俗の改まらぬき勢とやうなる一と一の科簡よ
 ういとも凡俗に會議とて遠 えん かりやうと聞ゆとも前
 ぬうと進まじりて國政と始を士風改敗るのもやとあまわ
 下とあまじりて府儒迂濶の故態とや、せんきりてやう
 杞風憂天の五くともいへり

...

